

Photo Column

フォトコラム・自然観察

清流の宝石？

泉原 猛



「カワセミ (雄)」

「清流の宝石」と表現されることが多いが、せせらぎのようなどころには生息しない。農業用溜め池とか川の少し淀んだ部分で見られる。浅い清流ではエサとなる小魚が捕れないためである。上流域ではほとんど見られず、そこは同じ仲間のヤマセミが棲んでいる。

色彩豊かな出で立ちであるため、すぐに見つかると思いがちだが、そう容易ではない。自転車のブレーキ音と聞きまがう「チー」という声を頼りにすれば、水面近くを一直線に飛ぶ姿を見つけることができる。

軟らかい土手などに奥行き五十センチから一メートルの穴を掘り産卵する。近年コンクリート護岸化の伸展で営巣する場所を追われている。

岩上の白い遺物は彼だけのものではない。ここにはセグロセキレイ、キセキレイ、カワガラスなどもやってくるようである。

いずはら・たけし 一九三五年、東宇都郡城川町生まれ。県自然保護協会理事、日本野鳥の会愛媛県支部副支部長、「原点」同人。安備に入手できる携帯電話が、パソコン以上に手軽で便利な遊び道具と知って驚く。若者の財力と努力が過ぎ込まれるのも道理か。
(写真は一九八六年十一月六日、温泉郡川内町南方にて)

文化愛媛 No.47

¥ 500 (税込)

発行/平成13年(2001)10月1日

発行所/愛媛県松山市道後町2-5-1

財団法人愛媛県文化振興財団